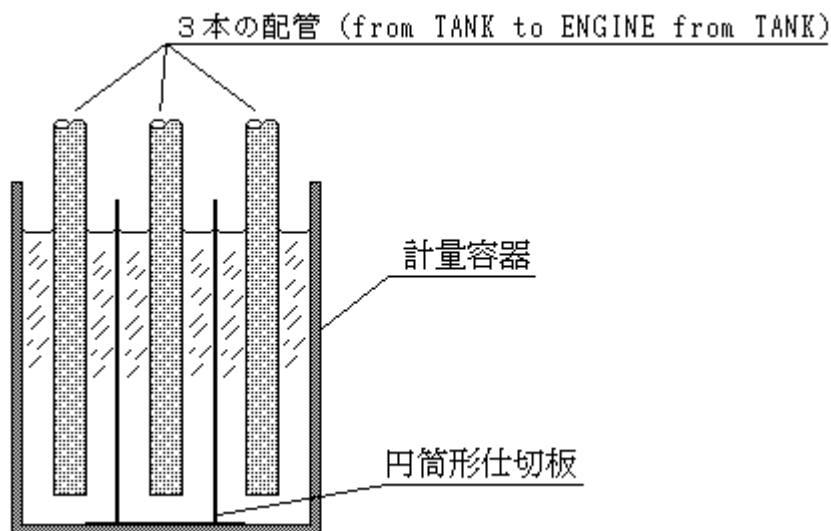


3 管挿入方式についての—補足説明書

◆1. 配管方式と浮力補正

- 重量式燃費計「FCL-2000R」において、燃料供給時の計量容器からの跳ね返りを防ぐ目的で、次の図のように、戻り燃料緩衝板を設けずに直接計量容器内部にまで挿入する形式の場合には、その分の浮力補正もしなければなりません。
- 浮力補正の式については、取扱説明書 10 ページに説明していますが、計量容器内部に複数の配管を挿入している場合には、「挿入されている管の外径による面積： S_2 」の値をその本数分だけ乗じた値に変更する必要があります。
- 具体的数値にてこの値を算出すると、次のようになります。
計量容器内径：20.9cm → 容器内径の面積： $S_1 = 343\text{cm}^2$
20A配管外径：2.72cm → 配管 1 本の面積： $S_2 = 5.8\text{cm}^2$
- 3 管ともに挿入されている場合、 S_2 を 3 倍して、10 ページの浮力補正式に代入します。
この時、浮力補正係数 k は、「 $k=0.949$ 」となります。



◆2. 検量

- 検量時の荷重の量と表示値の関係は次のようになります。

FCL-2000R、 $k=0.949$	
実荷重	表示値
1000g	949
2000g	1898
3000g	2847
4000g	3796